

文 献 紹 介

Current thoughts regarding the role of vagotomy in the surgical treatment of benign gastric ulcer: I. S. Ravdin, & Edwin H. Ellison.

(Surgery, 1965, 9)

十二指腸潰瘍の合併症防止に対してとられる外科的処置としての Vagotomy の役割については今までにもしばしばのべられてきた。

Dragstedt らは迷走神経系の Hyperactivity はほとんどの十二指腸潰瘍の患者に胃液の増量と酸度の上昇をひきおこすといっている。

また、幽門洞からの Gastrin 分泌については Dragstedt, Woodward らの人達によって強調されてきた。しかし、ほとんどの外科医は幽門洞からの Gastrin 分泌は良性潰瘍形式の起源を説明するためのものであるとし、胃潰瘍の外科的処置の中に Vagotomy を含めない人が多い。

最近では Gastrin の分泌は幽門洞粘膜だけでなく、幽門輪から肛門側の消化管の粘膜にかけても存在するといわれている。

Jordan は胃分泌が行なわれている間、小腸からもホルモン様物質が分泌され、これが壁細胞を刺激する作用がある。この際 Gastrin の存在下では作用が強められると述べている。その上、迷走神経系の刺激が Gastrin を生産する細胞を賦活することが知られている。

したがって完全に行なわれた Vagotomy は Gastrin の分泌低下をきたし、壁胃底腺の Sensitivity を減少させることになる。

完全な幽門洞切除だけでほとんどの胃潰瘍を治癒せしめるであろうということは事実であるが、再発もまた免れない。しかしこれは幽門洞の取り残しのためである。

(というのは Antral Gland の存在部位が例外的に広範囲に存在することがあるためである)。したがって口側の幽門洞粘膜の少しの取り残しがある場合には Vagotomy を追加することには後の潰瘍形成に対する予防策になる。近頃の風潮としては病巣切除、Vagotomy, Pyloroplasty が良性潰瘍の外科的療法として用いられる傾向がある。

(佐藤正)

**Dumping Syndrome After Gastric Surgery
Comparative Study of Experimentally Produced Dumping Syndrome After Gastroenterostomy with Vagotomy and Pyloroplasty With Vagotomy: Theodor Wiznitzer, MD; Ron Rozin, MD; Alexander Aviram, MD; Ahmed Diab, Jerusalem, Israel.**

(Arch, Surg-vol 91, September 1965)

迷切胃腸吻合と迷切幽門成形術後のダンピング症状発現の比較を実験的に研究したもので、50名の患者を対象とし、その半数づつに迷切胃腸吻合と迷切幽門成形術が行なわれた。さまざまな程度の臨床的ダンピング症状が迷切胃腸吻合術後に14名(56%)、迷切幽門成形術後に10名(40%)発現した。迷切胃腸吻合に比べ幽門成形術の方が症状は強くなかった。実験的発現方法としては、患者達を14時間断食させた後坐位で50%グルコース水溶液150ccを経口的に与え、その摂取前、および10分、20分、30分、60分、120分後に循環血漿量を測定した。この実験的な方法ではいろいろな激しいダンピング症状が起り、迷切胃腸吻合後のものには20名(80%)、迷切幽門成形後のものには17名(68%)に起った。両グループにおいて臨床的ダンピング症状と試験食後に生じた症状との間にはっきりと相関があった。しかし多くの症例で実験的に引き起される症状はより激しく、通常臨床的にダンパーでないものにも数人現われている。試験食直後の時期には血漿量の減少が50例中49例にみられ、両グループ間には差異がなかった。また両グループの血漿量の減少平均でも差異は見られなかった。臨床的観察ではダンピング症状の強さは、迷切胃腸吻合に比較して、迷切幽門成形グループの方が影響が少なかった。しかし実験的には両グループ間に有意の差は認められなかった。ふだん臨床的ダンピングの現われないものでも、試験食を用いることで症状が現われ、実験的に引き起された症状と血漿量の減少との間に相関が見られ、血漿量の減少の値は、症状のないものに比較してあるものの方が等しいか、または多かった。両グループ間には血漿量の減少の有意の差は見られなかったし、臨床的または実験的ダンピング症状の程度との間にも相関は認められなかった。

(石踊二矢)